

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 1 回	グループホーム	部会	参加者数	44 人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成 27 年 7 月 22 日 (水) 13:30 ~ 15:40						
主 題 マ	<p>1 世話人研修会 基礎編:講演会 2 世話人研修会 実践編:グループワーク</p>							
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(講師:辰野恒雄 地域支援力向上スーパーバイザー) ○世話人さんを主な対象として、支援に対する基礎的な考え方についての講演が行われた。 ○ちょっとしたクイズやご自身の支援経験、ユーモア等も交えながら、資料に沿って、終始和やかな雰囲気の中、大変分かりやすく要点的にお話くださった。 【演題】「利用者理解と、支援のコツ・・・利用者とのより良い関係づくりのために」 【講演概要】(当日配布資料より一部のみ抜粋)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「障がい者支援の歴史」こそが、利用者と支援者の付き合い方の歴史 ・国際障害者年(昭和56年) テーマ:「完全参加と、平等」 ・養護学校の義務化 日本における最重度の子どもたちの就学実現(昭和54年) ・日本型ノーマライゼーション 「この子らに世の光を」→「この子らを世の光に」(糸賀一雄氏) ・「指導」・「訓練」から「援助」・「支援」へ ・アセスメントとストレングスの意味(グループワークで出てくる用語解説) ・「5ピクチャーズ」について(ストレングスに着目した支援を考える技法の概要説明) </div> <p>2 について(参加者全員) ○講演を受け、「5ピクチャー」の簡易技法を用いて、利用者さんからの相談事項、課題整理のしかた、解決のしかたをグループワーク形式で演習した。</p> <p>(1)進め方について(きりあ 矢野より) ・今回は、5ピクチャーのうち、(1)「着目するストレングス」と(2)「こうありたいと思う状況(夢や願い)」の2点に焦点化した演習を行う。 ・各グループには、実際にグループホームに入居されている当事者の方が1人ずつ参加されている。ストレングス、夢や願い等を皆で聴き取っていただき、模造紙にカラーマジックを使って、記入・整理していく。 ・ストレングスは「本人」と「環境」のストレングスに分けてそれぞれ記入する。 模造紙中央には、ご本人の名前(ニックネーム可)と似顔絵、そして、出された夢や希望を記入する。</p> <p>(2)演習(グループワーク) ・演習は、1グループ約7人、計6グループでおおよそ1時間かけ、当事者参加の生事例形式で行われた。 ・各グループ、ホームに入居されている利用者さんの思いに丁寧に寄り添いながら、語られた言葉の1つ1つからストレングスや夢・願いを聴き取って、模造紙にまとめていった。 ・時折、笑い声がきこえたり、終始明るく和気あいあいとした雰囲気の中で演習が進んだ。</p> <p>(3)グループごとの発表 ・完成した模造紙をホワイトボードに掲示し、当事者の方と一緒に話し合われたストレングスや、夢・希望等について、グループごと発表した。色使いや似顔絵等、各グループとも工夫してまとめられていた。 ・合わせて、参加された当事者の方からも、一言ずつ感想をいただいた。 多くの当事者が、参加できてよかった、うれしかった、楽しくできた等、肯定的な感想を述べておられた。</p> <p>(4)総評(辰野地域支援力向上スーパーバイザーより) ・すばらしい当事者と支援者の出会いと話し合いの場になったと思う。 ・障がいのある方の生活のしづらさは、障がいそのものに原因を求めてもなかなか解決しない。その人を取り巻く環境調整が重要である。 ・ストレングスを伸ばし、環境調整で生きづらさを軽減しながら、本日語られたたくさんの夢に向かって一歩でも近づけるような支援とは何かを一人ひとりが考えるきっかけにしていきたい。</p>							
ま と め	<p>・講演を通して、支援という考え方の基礎・基本を理解した上で、当事者を交えたグループワークを行い、ストレングスの見つけ方や、夢や願いの聴き取り方、寄り添い方について、ともに学び合うことができた。</p>							
次 回	<p>・詳細は、後日お知らせする。</p>							

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 2 回 グループホーム 部会	参加者数	33 人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成 27 年 11 月 27 日 (金) 13:30 ~ 15:30				
主 題 マ	1 講演&グループワーク:「東日本大震災の後に見えてきたもの」					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について</p> <p>○演題:「東日本大震災の後に見えてきたもの ～災害時の支援者の役割と期待すること～」</p> <p>○講師:埼玉県立精神保健福祉センター 社会復帰部長 鴻巣 泰治 氏</p> <p>・地域防災、特にグループホームにおける災害対応と支援者の果たすべき役割についての学びを深めるため、標記テーマによる講演会及びグループワークを行った。概要は、次のとおり。</p> <p>(1) 講師自己紹介・研修の目的及び進め方について 【研修の目的】 ア 平時から備え、災害時の支援活動等につなげる イ 防災を意識し、被災の影響を最小限にする ウ 風化させない</p> <p>(2) アイスブレイク ・「ナンバーゲーム」によるグループ作り及び自己紹介、司会・記録・発表者等の選定。</p> <p>(3) 個人ワーク ・自分の職場周辺の地図を各自描いてみる。</p> <p>(4) グループでの共有 ・各々描いた地図について説明。その中の1つを選び、その地域について、さらに情報共有を図る。</p> <p>(5) グループワーク ・選んだ地域で震度7の地震により災害が発生したと想定し、その地域の被害状況を地図に書き込む。</p> <p>(6) 東日本大震災発災時の様子(講師より) ・被災地写真が示され、大地震が発生すると実際、どんなことが地域に起こるか、視覚的にイメージした。 ・被災時には、所属機関本来の機能や役割の他に、調整機能を誰が担うかが重要となる。</p> <p>(7) 個人ワーク → グループワーク① ・怪我もなく無事だったあなたは何をするか、また何をしなければいけないかを各自黄色の付箋に記入。 ・模造紙に貼りながら、内容をグループ分けし、整理する。</p> <p>(8) 個人ワーク → グループワーク② ・災害時に行うべき事柄を踏まえ、平時から準備すべきこと、できることを各自ピンクの付箋に記入。 ・模造紙に貼りながら、内容ごと分類、整理する。</p> <p>(9) グループごとの発表 ・グループでまとめた模造紙をもとに、災害時にすべきこと、平時から行っておくべきことを各グループ、要点的に発表、気づきや学びの共有を図った。</p> <p>(10) まとめ(講師より) ・「避難準備情報」が出た段階で、支援者は要支援者や災害弱者の避難を開始しなければならない。 ・普段の備えがあればこそ、非常時対応が可能となる → 対岸の火事、他人事と決して思わないこと。 ・支援者が被支援者にならないように → 支援者がケガ・死亡したら、支援どころではない。 ・大規模災害時、公助は期待できない → 自助・共助、当たり前とっていたことを考え直してみる。 ・各グループで出された意見や対応策はすべて必要なもの。これをいかに行動に移すかが大切である。 → 優先順位を決め、できることから少しずつ、今日から準備を進めてほしい。 例:携帯電話のバッテリー、車のガソリン早めの給油、ベッドの下にはスニーカーを準備 等々。</p>					
ま と め	<p>・実際に自分の職場で大地震が起こったらどうなるか、日頃からどんな備えが必要かをグループワークを通して皆で学び合った。東日本大震災の教訓から得られた知見を地域でどう活かすかをともに考えることができた。</p>					
次 回	<p>・詳細については、後日お知らせする。</p>					

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第3回 グループホーム 部会	参加者数	29人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成28年1月7日(木) 13:30 ~ 15:30				
主 テ ー マ	<p>1 世話人研修会 基礎編:講演会 2 世話人研修会 実践編:グループワーク</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(講師:辰野恒雄 地域支援力向上スーパーバイザー)</p> <p>【演題】「利用者理解と、支援のコツ・・・利用者とのより良い関係づくりのために」</p> <p>○世話人さんを主な対象として、「支援」という考え方と障がい者の「生活のしづらさ」に焦点を当てた講演が行われた。 ○ご自身の支援経験等を交えながら、資料に沿って、大変分かりやすく要点的にお話くださった。(講演概要については、第1回グループホーム部会議事録を参照のこと)</p> <p>2 について(参加者全員)</p> <p>○講演を受け、「5ピクチャーズ」の簡易技法を用いて、利用者さんからの相談事項、課題整理のしかた、解決のしかたをストレングス視点に基づくグループワーク形式で演習した。</p> <p>(1) 進め方について(きりりあ 矢野より)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループには、実際にグループホームに入居されている当事者の方が1人ずつ参加されている。 ストレングス、夢や願い等を皆で聴き取り、模造紙にカラーマジックを使って、記入・整理していく。 <p>(2) 演習(グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1グループ7～8人、計4グループでおよそ1時間かけ、当事者参加の生事例形式で行われた。 各グループ、ホームに入居されている利用者さんの思いに丁寧に寄り添いながら、語られた言葉の1つ1つからストレングスや夢・願いを聴き取って、模造紙にまとめていった。 <p>(3) グループごとの発表</p> <ul style="list-style-type: none"> 完成した模造紙をホワイトボードに掲示し、当事者の方と一緒に話し合われたストレングスや、夢・希望等について、グループごと発表した。色使いや似顔絵等、各グループとも工夫してまとめられていた。 参加された4人の当事者の方からも、一言ずつ感想をいただいた。 参加できてうれしかった、今が一番幸せ、知らない自分を知ることができた等、皆さん肯定的な感想を述べておられた。 <p>(4) グループワーク参加者の感想(主なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 悩みを抱えた人たちへどのように寄り添えばいいのか大変勉強になった。今後に活かしたい。 ストレングスの概念を初めて知った。長所というだけでなく幅広い意味合いがあることが分かった。 ストレングスの考え方を体験的に理解できた。聴覚に障がいのある方にもより使いやすい手法が開発されたらうれしいと思う。 					
ま と め	<p>・講演を通して、支援という考え方の基礎・基本を理解した上で、当事者を交えたグループワークを行い、ストレングスの見つけ方や、夢や願いの聴き取り方、寄り添い方について、ともに学び合うことができた。</p>					
次 回	<p>・詳細については、後日お知らせする。</p>					

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第4回 グループホーム 部会	参加者数	30人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成28年3月17日(木) 15:00 ~ 17:10				
主 テ ー マ	<p>1 講演:グループホームにおける支援の実践事例報告</p> <p>2 グループホーム立ち上げに向けての経過報告・新事業所(グループホーム)紹介</p> <p>3 グループ討議</p> <p>4 その他</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について</p> <p>○グループホームにおける支援のあり方について学びを深めるため、お二人の方から、実践事例報告があった。</p> <p>(1) 講演 I</p> <p>○演題:「消防署から突然の業務改善命令を受けて～対応と支援とのあいだで感じたこと」</p> <p>○講師: 特定非営利活動法人 ウィズハートさく共同生活援助事業 サービス管理責任者 北澤 徹 氏</p> <p>○概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アパート型グループホームに自動火災報知設備の設置が必要との業務改善命令を受け、事実上、立ち退かざるを得ない事態となった。職員で対応を考え、後で利用者に説明したら、「もっと早くおしえてほしかった」と言われた。 ・大切なことは利用者の自己決定の保障と気づかされた。 <ul style="list-style-type: none"> 住む場の確保 = 支援者視点の対応・本人不在 希望する暮らしの実現 = 本人主体の支援・自己決定 ではないかと感じた。 <p>(2) 講演 II</p> <p>○演題:「サテライト型グループホームを始めてみて」</p> <p>○講師: 社会福祉法人 りんどう福祉会 地域共同生活事業部 サービス管理責任者 北原 もと子 氏</p> <p>○概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人暮らしを希望するグループホーム利用者がサテライト型グループホームを利用するに至るまでの経過報告。 ・サテライト型での現在の暮らしの様子(グループホームで夕食をとりアパートへ帰宅、想定外の困り感も発生した) ・支援してみて、本人、支援者ともに気づきや学びが多くあった。本人らしい生活ができることが一番大切と感じた。 <p>(3) 質疑応答(略)</p> <p>2 について</p> <p>(1) グループホーム立ち上げに向けての経過報告(南箕輪村役場 村上主任より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村では平成25年度より「障がい者グループホーム検討委員会」を設置し、第三者的立場の方が集まり、グループホームのあり方を検討してきた。昨秋、検討委員会より建議書を提出された。その主な内容は、次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ア グループホーム運営は民間事業者が行い、村は事業者の公募・選定を行う。建物はできれば新築が望ましい。 イ グループホームの施設整備には、村が補助金を出し、建設を後押ししてほしい。 ウ 設置場所確保や選定には、村が地域住民の協力依頼の調整に入る等、積極的に関わってほしい。 エ その他、附帯意見として検討委員の補足意見やアンケートに多く記載されていた意見等への言及もあった。 ・村として公式見解は出ていないが、建議書を参考に、今後検討していく予定。 <p>(2) パンセの会よりグループホーム建設の進捗状況報告(パンセの会 サービス管理責任者 菅野 氏より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懸案の重心の方向けのグループホームは、県へ助成金を申請中で、平成28年度には改修に着手し、完成予定。 ・場所は伊那市内。重心者向けで定員5人、ショートステイ1人。進捗状況等、次年度の部会でも報告していきたい。 ・医療的ケアが必要な方については、対応が難しいため、現段階での受入れは考えていない。 <p>(3) 新事業所紹介(合同会社 すえひろがり 管理者 亀井氏より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年3月より伊那市内に精神障がい者を対象としたグループホームをオープンした。定員6人。 ・一般アパートをグループホームに改装。完全個室で建物の1階には職員が常駐。セキュリティシステムで連絡相談可。 ・地域で安心して暮らせる住まいの提供、医療や関係機関との連携を大切にしたい。見学等、ぜひどうぞ。 <p>3 について(参加者全員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・即席で4つのグループを作り、本日の講演の感想などを中心にグループホームに関する意見交換を行った。 ・各グループでの話し合いの様子を発表し合い、全体で共有した。 <p>4 について</p> <p>(1) 箕輪町における居場所づくりの動きについて(箕輪町役場 小池係長より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年7月開所を目指し、イオン箕輪店の旧フードコート部分に地域活動支援センター的な居場所づくりを計画している。子育て中の親子の交流ひろばも併設予定。障がいのある方が運営するカフェ・レストランも作る予定。 ・利用は無料。月1回イベントも開催したい。町では利用時間は10時～20時、365日年中無休で考えているが、受託業者の人員配置の都合もあり、現時点では未定。土・日・火・水は必ずオープンするという条件はつけている。 <p>(2) 伊那保健福祉事務所より(山崎主任より)</p> <p>ア サテライト型グループホームについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立ち上げ方を知りたい、申請したい等希望があれば、申請の進め方等、当所担当湯澤までお気軽にご相談を。 <p>イ「預り金」規程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の預り金の厳正な管理については先般通知したところだが、各所規程づくりと運用の徹底をお願いしたい。 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの講演とグループワークを通して、地域で安心して暮らせるグループホームの多様なあり方を考えた。 ・圏域内グループホーム立ち上げの動きなどの情報共有を図ることができた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は4回の部会を開催してきました。大勢の皆さんのご参加、ありがとうございました。 ・来年度も引き続き積極的なご参加をよろしく願います。 					